

随筆

アメリカ・メキシコ駐在記

岡 敬 子

1. はじめに

私は2014年5月から2015年12月までの1年8ヶ月間、アメリカのKYB Americas Corporation（以下KAC）、2016年1月から2019年4月までの3年4ヶ月間、メキシコのKYB Mexico S.A de C.V.（以下KMEX）、KYB Latinoamerica S.A de C.V.（以下KLA）での駐在生活を経験した。

入社以来、本社人事に勤務し異動経験のなかった私にとって、初めての異動が海を超えた海外になろうとは露ほども思わず、異動の話聞いた時の衝撃は今でも鮮明に覚えている。さらに、続けてメキシコへ行くことになるとは、人生何が起こるか分からないものである。

5年間の駐在生活を通じて得た貴重な経験の一部を紹介する。

2. アメリカ生活

KACのあるインディアナ州はアメリカ中西部に位置している。夏は気温が35℃近くまで上がり日差しが非常に強いが、湿度が低くカラッとしているため日陰に入れば涼しく過ごしやすい。一方、冬は寒く気温がマイナス20℃近くまで下がることもある。幸い私が過ごした2014年は暖冬だったため、そこまで下がることはなかったが、それでもマイナス10℃以下になることはあり、耳の痛くなるような寒さを経験した（写真1）。



写真1 自宅アパートからの雪景色

アメリカでの移動手段は自動車メインとなる。日本では完全にペーパードライバーだったため、運転の練習をするところからのスタートであった。先輩駐在員の方々には慣れない運転に同乗して思いをさせてしまい、感謝と申し訳なさで頭が上がらない。ただし、日本での運転はほとんどなく、私にとっての“運転”は「左ハンドル、右側通行」が普通だったため、先入観なくアメリカの道路を走ることができたのでは、と思っている。

アメリカには言わずと知れた観光地がたくさんあり、メキシコ駐在時も含めシカゴ（写真2）、ハワイ、ニューヨーク、フロリダと主だった観光地を訪れることができた。



写真2 ミシガン湖から見たシカゴの街並み

ちなみに、インディアナからハワイへ行くには同じアメリカとは言え、国内線を乗り継いで10時間近くかかる。日本から行く方が乗り継ぎもなく、よほど早く楽に行ける。この事実がアメリカの広大さを如実に物語っていると感じた。

3. アメリカでの業務

私が赴任した2014年にKACが米州統轄会社として位置付けられ、人事部門としては初めてのKAC駐在となった。前任者がおらず手探りの状態の中、コーディネータとして日本とローカルスタッフとの橋渡しの役割を担った。日本からの様々な依頼事項をローカルスタッフと協力しながら対応することはもちろん、日本での経験で得た知識をローカルス

スタッフに伝えて改善活動へ繋げたりした。

英語でのコミュニケーションは日本人によくある「文法が間違っていて、伝わらなかったら恥ずかしい」という思いが先に立ち、なかなか言葉が出て来ず、「間違っても伝わればいい!」と割り切れるまでは非常に苦労した。

ある人から「英語で夢を見るようになったら、かなりの上達だ」と言われたが、1年強の駐在ではその域に達することができなかったのは残念だった。

また、統轄会社として米州各拠点の支援にも携わった。残念ながら、一度は行ってみたかったブラジルに行く機会はなかったが、メキシコはアメリカ駐在時から出張ベースで支援した。最終的にはメキシコの比重が高くなったこともあり、メキシコを本拠地として活動することとなった。

4. メキシコでの業務

KMEXは2012年10月に会社設立、無段変速機用ポンプの生産から始まり、2016年からのショックアブソーバの生産開始に向けて、人事部門として従業員の採用、人事制度の基盤構築等に携わった。

日本とは言語はもちろんのこと法律、文化、国民性の異なる海外ではローカルの人事マネージャの存在が不可欠であるが、KMEXではなかなか人事マネージャが定着せず人事制度の制定が遅れていたこともあり、ローカルスタッフの協力を得ながらの作業となった。社員の離職率の高さやそれに伴う採用活動等、悩まされたこともたくさんあったが、一つ一つ協力しながら乗り越えることができた。

また、生産の立ち上げ準備で日本やKACからの出張者が多数来訪していた(表1)。多い時は30人近く同時に滞在したため、ホテルや通勤バス、空港送迎の手配等に奔走し大変な思いもしたが、普段はなかなか接する機会のない技術や製造の方々と一緒に食事をしたり時には観光に行ったり、日本ではできないコミュニケーションを取ることができた。現在はKYB岐阜北工場に勤務しているが、メキシコでご一緒した方々から声をかけていただけて非常に有難く思っている。

表1 ある月の出張者来訪スケジュール表

KMEX Visitors Schedule										
Total Visitors	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Arrive (Need Pick up/Hotels)	0	2	0	1	0	1	0	0	0	1
Stay (Need Hotels)	29	27	23	23	22	22	23	18	18	18
Departure (Need Drop off)	2	2	6	0	2	0	0	5	0	0
Total	31	31	29	24	24	23	23	23	18	19

2017年4月からは人財サービス会社であるKLA

の経営者としての業務に携わる機会をいただいた。KMEXの役員を除く従業員は全員KLAからの人財派遣という形態を取っており、総務、人事、経理を中心とした人に関わる業務はKLAで行っている。人事業務だけでなく、株主総会、取締役会、経理決算処理、監査対応といった日本ではあまり経験する機会のない貴重な経験ができた。2017年当初はあまりのプレッシャーとストレスで円形脱毛症になったりもしたが、周囲のサポートをいただきながら無事に乗り切ることができ、感謝している。

また、KLAの本社は首都メキシコシティにあるため、月に一度の大都会へのお出張では業務の合間にささやかな息抜き(食事や観光)を楽しむことができた。

5. メキシコ生活

KMEXがあるシラオ市、駐在員が生活するレオン市のあるグアナファト州はメキシコ中央高地に位置している。メキシコは一年中暑いイメージがあるが、標高が1,800~1,900メートルと高いため、日中晴れると30℃近くまで上がるものの、朝晩は気温が一桁台まで冷え込むこともあり、一日の寒暖差が大きく体調管理が難しい。この寒暖の差と急な高地生活に高山病のような症状を訴える出張者もいた。

ちなみにメキシコシティは標高2,300メートルとさらに高く、普段レオン市にいる私でも息苦しさや寝つきの悪さを感じることもあった。

メキシコもメインの交通は自動車である。メキシコ的高速道路は制限速度が110km/h、一般道でも大通りは80km/hのところがあり、スピードを出して走っている車が非常に多い。そんな中、右にウィンカを出しながら左に入ってくる車がいたり、時には高速道路でも平気で自転車や人が横切ることもあり、ハプニングには事欠かない。渋滞もひどく、レオン市からシラオ市までは通常で30分もかからずに移動できるが、雨が降ったり、事故があると1時間~2時間は覚悟しなければならない。こんな状況の中を運転初心者の私がよく運転していたと自分を褒めたくなるぐらいである。

レオン、シラオ地区は日系企業が多数進出していることもあり、リーズナブルで美味しい日本食レストランが増え、日本食材も気軽に手に入るため(値段は日本の3倍ぐらいするが)食事にはあまり困らなかった。また、メキシコ料理を始め、スペイン料理、イタリア料理、アルゼンチン料理等、様々な多国籍料理を堪能でき恵まれていたと思う。

メキシコ料理と言えば唐辛子、パクチーが欠かせない調味料である。辛いものが苦手な私はレストランで「この料理は辛い?」と聞くとたいい「辛く

ないよ」と返ってくるため、頼んでみるとかなりの確率で激辛料理が出てくることがあった。「(メキシコ人にとって)辛くない」という意味を理解するのにしばらく苦労した。また、パクチーも得意ではないため、私の中では「Sin Chile (唐辛子抜き)」「Sin Cilantro (パクチー抜き)」の2つは重要なスペイン語だった。

定番のタコスには日本では小麦粉を使ったトルティーヤが多いが、メキシコではトウモロコシの粉を使ったものが一般的である。独特の香りがするため最初は抵抗感を持つ人も多いが、慣れてくるとこの香りがヤミツキになってくる。タコス屋は町の至るところで見かけるが、ピンからキリまで様々あるため、ローカルスタッフに連れて行ってもらうと美味しいタコスにありつける(写真3, 4)。



写真3 タコス屋



写真4 トウモロコシのトルティーヤのタコス

いう陶器である(写真5)。非常に緻密で細かい絵柄、色使いに一目惚れして少しずつ増えていった。絵柄によってはリーズナブルに買えるものもあり、日本に一時帰国した際のお土産としてとても喜ばれ、出張者もお土産によく購入していた。



写真5 セルビン焼の小物入れ

レオン、シラオ地区から一番近い観光地と言えば、州都でもあるグアナファトである(写真6)。グアナファトは色とりどりの建物が建ち並び街全体が世界遺産となっており、数年前に上映されたディズニー映画「リメンバー・ミー」の舞台になったとされる街である。昼間はカラフルな景色、夕方は夕陽に照らされた景色、夜はライトアップされた景色とその時々美しい景色が見られる。出張者を連れて何度もグアナファトに行く機会があったが、いつ行っても、何度行っても楽しめる素敵な街である。



写真6 グアナファトの街並み

6. メキシコ観光・名産品

メキシコには民芸品を中心に様々な名産品があるが、グアナファト州で有名なのは「セルビン焼」と

メキシコシティには世界遺産の「テオティワカン遺跡」がある。中心街から50km程の場所にあり、中でも「太陽のピラミッド」、「月のピラミッド」と呼

ばれる2つのピラミッドが有名である（写真7, 8）。現存するピラミッドでは珍しく頂上まで登ることができ、途中で何度も挫けそうになりながらも頑張って登り切った頂上からの景色は圧巻だった。



写真7 太陽のピラミッド



写真8 太陽のピラミッドから見た月のピラミッド

7. おわりに

KAC, KMEX, KLAと2か国、3拠点で過ごした5年間は何物にも代え難い貴重な経験となった。言葉も文化も違う海外で大きなトラブルもなく駐在を全うできたのは、一緒に仕事をしたローカルスタッフ、駐在員の皆様のおかげである。また、生活面では駐在員のご家族の皆様にも大変お世話になった。この紙面をお借りして感謝を申し上げたい。

駐在生活で得た経験や人との繋がりを、今後の業務に活かしていけるよう邁進していく所存である。

著者



岡 敬子

1997年入社。総務・人事本部人事管理部専任課長。

本社人事部門、アメリカ、メキシコ駐在を経て現職。